

## 胴 乱 (兵庫県植物目録追加-1-)

岩 谷 成 彦

### ヤマブキソウ (ケシ科)

本州、四国、九州の山の木陰に生える。茎の高さ30cm位の多年生草本。4月～5月頃、あざやかな黄色4弁の花を開く。花の形と色がヤマブキ(バラ科)に似ているから、こう呼ばれる。特に石灰岩地で多く見られる植物である。

これが、目録に記載されていない。

村田源氏・近畿地方植物誌20(兵庫生物VII-82)にも、京都府で2カ所、大阪府1カ所、滋賀県2カ所、三重県1カ所の産地が記載されているが、本県の産地の記載はない。

花期が短いから、発見されにくいからであろう。

1976年5月2日、佐用郡三日月町弦谷の杉林の中に群生しているのを見た。

目録に追加したい。

### キバナノアマナ (ユリ科)

牧野新日本植物図鑑によると、日本では、本州中部以北の山野に生える多年生草本。

大井博士の日本植物誌では、北海道、本州(北、中部、近江国、備中国など)。北村博士らの原色日本植物図鑑草本編によれば、本州西部、四国では稀とあり、本県に産することは珍らしい。

目録によると、丹波2カ所、但馬1カ所の産地が記載されている。

高さ15～20cmの多年生草本。春に一茎一葉を出して、黄色の花を開くが、夏には早くも鱗茎を残して枯れるので発見されにくいのであろう。

1976年3月20日、佐用郡三日月町三日月の雑木林縁で自生するのを見た。これは、三日月中学森本実氏の御指示によるものであるが、調査すればもっと確認される可能性がある。

### カタクリ (ユリ科)

サクラの花の咲く頃、一對の葉の間から、15cm内外の花茎を出し、茎頂に1コの花を斜下向につける。紫色のかれんな花で、花被片の先は強くそりかえっている。

葉の表面は、濃緑色で紫斑がある。

花がすむと、枯れ、5月の終にはその姿を見ない。春とともに咲き、春とともに消えてゆく美しい花である。

鱗茎から良質のでん粉がとれる。(普通市販される片栗粉は、ジャガイモのでん粉である)

北海道から九州まで日本各地に広く分布している。(文献によっては、四国には稀で、九州ではまだ発見されていないとか)

目録にも、各産地の記載があるが、西播では船越山、南光町とあり、南光町の地名の記載がない。

1974年から1976年、佐用郡に勤務しているとき、南光町で1カ所、佐用町1カ所、三日月町1カ所で、群生することを確認した。

その他、佐用郡内数カ所で見られるとのことである。

### アオガネシダ (チャセンシダ科)

伊豆半島以西の暖帯の山林中の岩上や樹上に着生する常緑性多年生の草本。

目録によれば、淡路、丹波で1カ所づつ、西播では富栖とある。

夢前、安富町植物目録(兵庫県発行・1973年)によれば、富栖は、安富町皆河であることがわかる。また、夢前町小畑にも産することが記載してあるが、これは、菅生ダム建設工事のため絶滅したものと思われる。

1975年11月16日、佐用郡上月町秋里の谷の岩上に自生するのを見たので報告する。

### クモノシダ (チャセンシダ科)

北海道から九州まで広く分布し、山地の石灰岩地帯に好んで生えるので、石灰岩植物として知られるが、安山岩その他の岩上に生ずることもある小形の常緑性の多年生草本。

葉が細くて、長く四方にのび、葉先が地につくと無性芽が出来、繁殖する。その形がクモが網をはった状態に見立てて名付けられた。

県下には、目録によると、西播では雪彦山、但馬、田路に産する。

佐用郡上月町櫛田の奥にある飛竜の滝は、チトセカズラ、コヤスノキやシダ類の多く見られる谷であるが、クモノシダが岩上に着生していることを確認している。

石灰岩地帯のようによく伸びてはいない。貧弱なものであるが、数株ある。